

* 「すばる」望遠鏡が載っている記念切手

アーカイブ室新聞200号で東京天文台岡山天体物理観測所開所記念切手が発行された記事を書いた。その際、筆者が建設に参加したハワイの「すばる」完成記念式典で元総理大臣海部俊樹氏がすばる完成記念切手を発行させると約束したが果たせなかったという記事を書いた。その200号の記事を読んだ測量史研究家の上西勝也氏から、「すばる望遠鏡の切手は昨年3月21日に発行されています。日本天文学会創立100周年記念として発行された10枚1組のシートの中の一つです。」というメールをいただいた。確かに日本天文学会創立100周年記念の10枚組の切手(写真1)のなかに「すばる」のドームの切手が含まれている。



この記念切手の10枚は、1) 太陽と太陽系の天体I、2) 太陽と太陽系の天体II、3) 系外銀河
4) X線天文衛星「すざく」、5) 小惑星探査機「はやぶさ」、6) 小惑星と地球、7) 国立天文台
「すばる望遠鏡」、8) 銀河系と様々な天体、9) 火星、10) 国立天文台「野辺山45m電波望遠

鏡」で構成されている。上西氏の指摘のように記念切手の中に「すばる」はあるが、あくまでも「日本天文学会創立100周年記念切手」の10組切手の1枚として取り上げられたものである。

元総理大臣の威光をもってしても、記念切手に外国に置かれた施設は取り上げないという前例を踏み外さない官僚主義が貫かれた事例と思っている。

すばるは、口径ではもはや世界1（1枚鏡の望遠鏡としても）ではなくなり、理科年表の順位表では7行目にランクされている。筆者が東京天文台岡山天体物理観測所に入った際、188cm望遠鏡は世界7番目の大きさを誇っていたことを思うと感慨深いものがある。

それでも、8m級の望遠鏡で唯一主焦点広角カメラを持っていることなどで、世界最高性能の望遠鏡の地位は守っていると思っている。現在まで観測された最遠天体20位までの全てをすばるが占有していると聞く（家教授談）。今一度「すばる」建設時の一コマ（写真3）を載せておきたい。



写真2 山頂に向かう「すばる」の主鏡輸送